

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K07997

研究課題名(和文) 先進的農業経営体リーダーの人的ネットワークとその形成過程の分析

研究課題名(英文) Analysis on building process of human relationship of innovative farmers

研究代表者

藤崎 浩幸 (FUJISAKI, HIROYUKI)

弘前大学・農学生命科学部・教授

研究者番号：30209035

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：農園カフェを実現したリーダーと自治体担当課が事務局を務める農泊受入組織の重要人物ネットワークを想起法により調査し、ネットワーク構造を可視化し関係数値を得た。農園カフェでは、開業時運営に直結する少人数の結束型ネットワークを基盤に開業に必要な外部とのネットワークを形成して事業を開始させ、その後、経営者の思いに共感する者を内部化し結束型のネットワークを拡張していた。農泊受入組織では、会員間、役員間のネットワークが疎らで、広く共通する重要人物は想起されなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、社会ネットワーク分析手法により農園カフェと農泊受入組織の重要人物ネットワーク構造を定量的に可視化した。農村振興研究においては、各種主体の関係性構築や協働に関して、客観的に関係性や協働体制を論じるため、社会ネットワーク分析活用促進の一助となる。また、農業農村振興に関与する関係主体に対しては、自らの事業推進に関する人的ネットワークの優位性や課題を客観的に把握する一助となる。

研究成果の概要(英文)：The networks of important persons in a leader who realized the farm cafe and a farm-stay organization where the section in charge of the local government serves as the secretariat were investigated by the recall method, and these network structures were visualized and the related numerical values were obtained. The farm cafe started its business based on the bonding network of manager and a few associates and outside network of many people needed to open the cafe. After that, the bonding network expanded with the addition of associates who sympathize with the manager's ideas. On the other hand, the network between members and the network between officials of farm-stay organization was sparse, and members did not recall the same key person much.

研究分野：農村計画

キーワード：人的ネットワーク 農園カフェ 農泊受入組織 社会ネットワーク分析

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

農業を成長産業とするため、農地集積による大規模経営体育成や農業の六次産業化による農産物の高付加価値の推進などが強く求められている。この実現には、各種の政策的な誘導と同時に意欲的に先進的な農業経営体育成に取り組むリーダーとそれを支える人的ネットワークが不可欠である。

先進的な農業経営体のリーダーに関する人的ネットワークの構造と形成過程に関する研究は、まだ行われていない。担い手への農地集積はこの30年余の日本農業の大きな課題で、農業経済分野での研究を中心に数多くの研究があり、藤崎(研究代表者)も圃場整備面からこの研究を行っている¹⁾。また、農業の六次産業化については、この言葉が広く使用される以前から農商工連携やグリーン・ツーリズム推進の一環で研究が行われており、藤崎と齋藤(研究分担者)は農家民宿や農家レストラン研究に取り組んできている²⁾。こうした担い手育成や六次産業化の推進など多様な農村振興に関する多くの研究においては、推進役となる人や関係主体の連携の重要性が明らかにされているものの、定性的な指摘にとどまっていた。

ところが近年、人的ネットワークの構造や数量的特徴を明らかにできる社会ネットワーク分析手法が発達し、農村振興研究にも導入され始めた³⁾。藤崎・齋藤は、八巻を代表とする研究チーム⁴⁾に参加し地域づくりで名高い岩手県葛巻町の社会ネットワーク分析を分担し、町全体の地域づくりを支える町長を中心とする緊密な結束型人的ネットワークの構造を定量的に明らかにした。

1)藤崎,山路「標準区画から脱却し創造的な大区画圃場を目指せ!」農業土木学会誌 74(9),801-804, 2006。2) 齋藤,藤崎他「農家レストラン経営状況と地域への経済効果に関する事例分析」農村計画学会誌 31(論文特集号),213-218,2012。3) 高橋他「農山村集落の活動の展開におけるソーシャル・キャピタルの作用: 岩手県西和賀町S集落住民の社会ネットワークと活動の検証」農村計画学会誌 31(2),174-182,2012。4)八巻他,藤崎他「過疎地域の地域づくりを支える人的ネットワーク: 岩手県葛巻町の事例」日本森林学会誌 96(4),221-228,2014。

2. 研究の目的

先進的農業経営体リーダーがどのような人的ネットワークを形成して先進的農業実現に至ったのか、そのネットワーク構造と経時的变化を社会ネットワーク分析(Social Network Analysis)を用いて可視化し定量的に把握することにより、先進的農業経営体リーダー育成に関する提言を行うことを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、複数の農業の六次産業化や農地利用集積による大規模水田経営体の聞き取り調査を踏まえ、調査の遂行可能性と想定される人的ネットワーク構造の違いなどを勘案し、経営者のリーダーシップが際立つ農園カフェXと自治体担当課が事務局を務める農泊受入組織Yを分析対象として選定した。人的ネットワークは「運営において重要と考える人物」を回答者に想起してもらい把握することとした。

農園カフェXは調査時点(2018年)で開業11年目、地方都市の市街地周辺に立地し、自家農園で収穫した果樹・野菜を生かした飲食物を提供している。予約不要で利用でき、週6日昼間に営業している。経営者(50歳代/女性)は、夫が経営する自家農園の利活用を考える中で農園カフェを発案し、現在では自家農園の看板となる重要な一部門と位置付けられている。経営者を中心とするスノーボールサンプリングにより選定した11名の回答者を対象に、半構造化聞き取り調査によりXの[開業時]と[調査時]における運営上の重要人物を把握した。

農泊受入組織Yは自治体の農泊推進施策に呼応した農家が集まり発足し約25年経過してい

る。受入客は教育旅行が主で、年間 1,500 人を受け入れた年もあるが近年は 1,000 人を上回る程度で推移し 2018 年は 800 人だった。2019 年会員数は 28 戸で約半数の会員は年 10 回以上来訪者を受け入れているが、残りの会員は家庭事情などにより受入に制約がある。受入客数の拡大を図るには会員数増加が必要な状況である。調査は、全会員対象のアンケートを 2019 年に行い、Y の[これまで]と[今後]における重要人物を把握した。有効回答は 15 戸だがうち 5 戸は[今後]に関する設問に無回答であるので、[これまで]については 15 戸、[今後]については 10 戸を有効回答とした。

4 . 研究成果

(1) 農園カフェ X

回答者は、経営者 A1 とその親族 A2 ~ A5 と関係者 B1 ~ B6 である。B のうち 3 名は A1 の開業前からの知人、他の 3 名は来店契機で A に共感し運営に参与している。このうち A1, A2, B1, B2 が開業時メンバーである。

図 1 は開業時のネットワークである。回答者の回答人数（出次数）は 7 ~ 13 名で平均は 10.0 (標準偏差 2.45) である。

開業時メンバーの以外の重要人物は経営者親族 A3, A5, i1 ~ i4、カフェ運営関係者 j3, j7, j8、建築関係者 k1 ~ k3 とカフェ運営指導 k4 ~ k9 の 18 名である。開業時メンバーの回答者 4 名のネットワーク密度は 0.83 で、特に A1, A2, B1 の 3 名は互い双方向で重要だったと判断しており完全な結合型のネットワークを形成している。A1, A2 が建築関係と親族を想起しているのに対し B1 はカフェ運営指導関係者を想起していて、k4 ~ k8 と A1, A2 との橋渡し役に位置している。

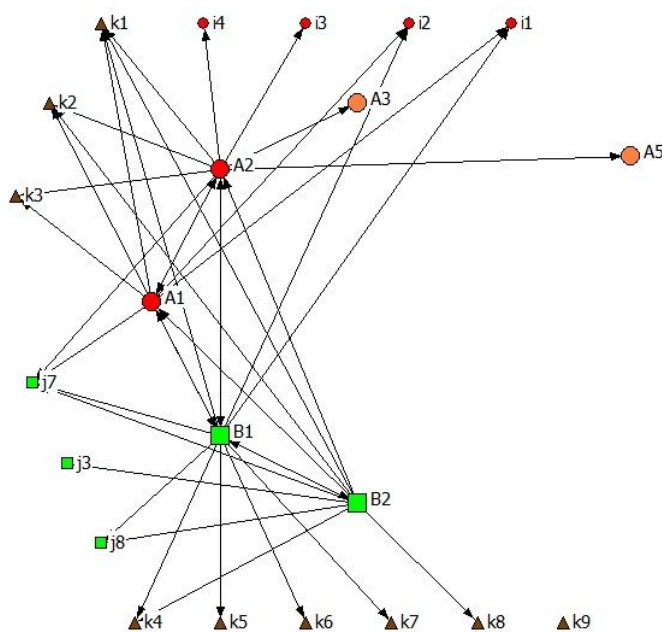


図 1 X 開業時の重要人物ネットワーク

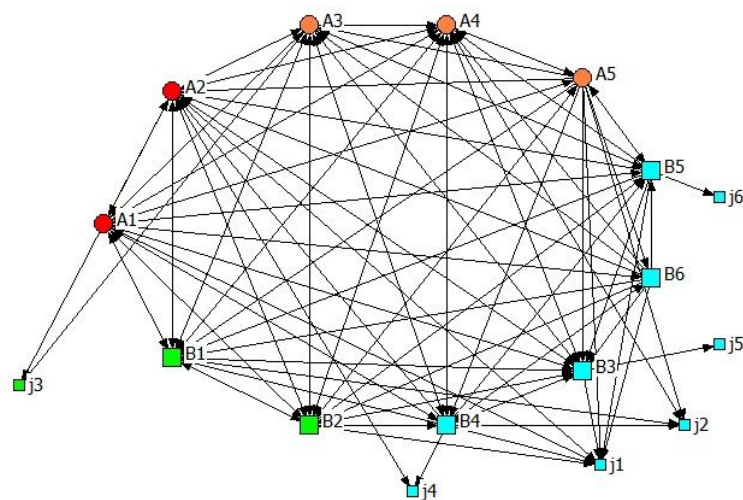


図 2 X 調査時の重要人物ネットワーク

調査時のネットワークが図 2 である。回答者の回答人数（出次数）は 7 ~ 12 名で平均は 9.7 (標準偏差 1.49) である。回答者 11 名のネットワーク密度は 0.81 と緊密で、A1 ~ A4, B1, B3 の 6 名が入次数 10 で全員から想起され、B2 が 9、j1 が 8、B4 が 7、B5 が 6 と続く。回答者以外の

差 2.72)で、今後の組織の担い手を見出せていない状況がうかがえる。回答者 10 名への想起は皆無でこのネットワーク密度は 0 である。想起された会員は a3o が入次数 2、b_1 が 1、若い会員 by が 1 だけである。協力者・組織 e に比較的期待が集まり入次数が合算して 7 で、自治体 o は A5_2 が細分化して回答したのを捨象すると実質的に入次数 4 である。A5_4 は子供 df_2 と近隣自治体の農泊実践者 fi を想起していた。

Y の重要人物ネットワークがこのような状況であるのは、自治体担当課が事務局として受入客の会員への割振りや会員勧誘などを担ってきた結果、会員相互の認知や協力体制の希薄さ、農泊事業の推進経過や組織運営に対する認識の浅さがあるものと推測される。

(3) 先進的農業経営体リーダーの育成に向けて

本研究では農業の六次産業化に関連した 2 事例に関して重要人物ネットワーク構造を定量的に可視化した。経営者のリーダーシップが際立つ農園カフェ X では、少人数で結束型のネットワークを基盤に開業に必要な外部とのネットワークを形成し事業を開始させ、その後は思いに共感する者を巻き込み結束型のネットワークを拡張していた。一方自治体担当課が事務局を務める農泊受入組織 Y においては、自治体担当課が長年事業を継続してきたという実績はあるものの、来訪者の農泊受入の枢要を担う会員の目からは共通するリーダーが想起されておらず、会員間あるいは役員間のネットワークが疎らであった。

農園カフェ X 経営者がどのようにリーダーシップを身に付けたかは、本研究における社会ネットワーク分析では解明できていない。しかし、今回の 2 事例のネットワーク構造とそれを表す数値データの違いは、リーダーによる新規事業立ち上げとその後の事業運営を支えた人的ネットワークの一つのあり方を提示している。

そして、ある農業経営者が先進的な事業に着手する際には、農園カフェ X で把握されたような人的ネットワーク像を目安とし、類似の人的ネットワークを構築できているかどうか点検したり、構築できていない場合に人材確保に向け支援することにより、当該農業者が先進的な事業を軌道に乗せ、先進的リーダーへと成長できるものと考えられる。

本研究では農園カフェリーダーの人的ネットワークの解明にとどまったため、これ以外の農地利用集積なども含め多様な先進的農業経営事例について、その事業展開と関係させて可視化された人的ネットワーク情報を蓄積していくことが重要である。これにより、農業経営者が、先進的な事業展開に向け、自らの人的資源の優位性や課題を客観的に認識したり、先進的リーダー育成に関する各種支援組織が、人的資源面での実践的な助言が可能となることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 藤崎 浩幸	4. 巻 2018
2. 論文標題 農業農村の六次産業化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 森林環境	6. 最初と最後の頁 46-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤崎 浩幸、加藤 光希
2. 発表標題 農泊受入組織会員の農泊取組意識
3. 学会等名 農村計画学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤崎浩幸、齋藤朱未
2. 発表標題 農家レストラン経営者の人的ネットワーク
3. 学会等名 農村計画学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齋藤 朱未 (SAITO Akemi) (20712318)	同志社女子大学・生活科学部・准教授 (34311)	